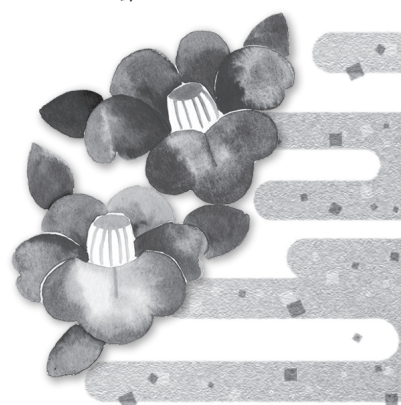


1 寺と庭

※題字／森川芳聲



もくじ

- 2 巻頭言 神話よ甦れ 山口 秀範
- 3 「社中」だより 廣尾 大輔
- 4 『古事記』ゆかりの地を訪ねて 山口 秀範
- 6 三十八年間の
教員生活を振り返って(最終回) 穴井 福代
- 7 ミヤンマーと日本④ 守田 剛
- 8 民間人から見た教育現場⑧ 小田村直昌
- 9 伊達政宗「馬上少年過ぐ」をめぐって② 廣木 寧
- 10 TERA KOYAふおとればーと
- 11 “あちこちde寺子屋”のご案内
- 12 歌碑のころ(9) 編集余録 余録の余録



太宰府市歴史スポーツ公園「万葉の散歩道」

歌碑のころ

梅の花散らくはいづくしかすがに
この城の山に雪は降りつつ

梅の花の散る所はどこなのだろう。とは言っても
のの眼前の城の山(四王寺山)に雪降るさまが
見える。本格的な春の訪れはまだのようだな。

※詳しい解説は12頁に掲載しています

神話よ甦れ

代表世話役 山口 秀範

謹賀新年

令和で迎える新春をお揃いでお過ごしのことと拝察します。設立十五周年の寺子屋モデルは、引き続き子供向け、大人向けに偉人伝を語り伝えて参ります。同時に、小中一貫校「志明館」の開設を加速しますので、変らぬご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。

成熟した国

昨年最大の出来事は何と言っても平成から令和への御代替わりでした。神話に始まる長い伝統に基づく儀式と歴代天皇のご精神を継承なさる新天皇皇后両陛下のお姿に、多くの国民は日本の国柄を実感し、諸外国からも賞賛の集まる一年でした。

そして本年もノーベル賞受賞者を生み、スポーツでもラグビーを始めとして世界の舞台で日本の若者が輝きました。しかも競技の強さのみならず、試合後の清掃や相手チームへの敬意など、観客のマナーも海外から注目的になっていきます。

先の大戦の敗北からやがて七十五年、わが民族は確かに成熟期を迎えているのでしょう。「日本らしさ」は世界の人々から好ましいものとして受け入れられるようになっていきます。

一方で自然災害の頻発は将来への大きな不安材料です。予測不能な風雨や地震が激甚化し、度々自衛隊員の献身的活動に依存しています。その自衛隊の本来の任務である国防については、自然災害以上の確率で周辺有事が危惧される状況にもかかわらず、憲法への自衛隊明示に見通しすら立っていません。政治家の怠慢は誰の眼にも明らかで重要案件は一向に前へ進みません。

大学入試の改革にしても、実用的な英語導入や、国語や算数の論理的思考を促すために記述式入試は待ったなしの筈なのに、枝葉末節の国会論議で改革のスピードは減殺されてしまっています。学力の国際比較で日本の高校生の読解力が急落した事も宜^{ふさわ}なるかなでしょう。

「成熟した日本」は不断の研鑽と再生努力抜きに、その価値を持続することは

叶いません。我が国の未来を誰に託せば良いのでしょうか。

偉人伝を甦らせる

十月に奈良・大阪へ『古事記』、『日本書紀』ゆかりの地を訪ねる旅が実施されました。先に神話の神々が祀られる鹿児島・宮崎の神社を歴訪しましたが、その第二弾です。

仁徳天皇陵に始まり、橿原神宮や大神神社、倭建命白鳥陵などを巡り、それぞれの地で『古事記』の該当箇所を声を揃えて読み上げました。四頁、五頁に詳述しますが、大和言葉の響きが千年以上の時空を超えてその土地に甦ってくる感覚を抑えることが出来ませんでした。子供たちの修学旅行はこのスタイルに限ると、「志明館」の開設に思いを馳せた次第です。

一方で日本人の歴史離れは今も確かに進行中です。忠臣蔵の四十七士を大学生が全く知らないことに、この頃では驚かなくなりましたが、先日高校の同窓会で四十代の後輩たちまで堀部安兵衛の名前に首をかしげるのにはがっかりしました。

つい先日大阪出張の合間に楠木正成ゆかりの地を訪ねたのですが、正成の活躍の舞台であった赤坂城跡には千早赤阪村

立中学校が建っていました。職員室に残っていた教諭にお願いして学校の裏門を開けて頂き史跡に立つことが出来たのですが、これほど身近にある郷土の偉人について、学校で全く教えていないと聞いて失望しました。

偉人伝の復活は四半世紀前に海外勤務から戻って教育再生を志した私の思いの原点です。今年も「あちこちde寺子屋」で、一人でも多くの子供に、そしてその親たちに偉人の魅力を伝えて参ります。

「志明館」への期待

少子化が進む中で教育の意義は益々高まります。未来を託すことが出来るのは、結局これから育ちゆく子供たちなのだから、一年でも早く「志明館」を誕生させたいとの思いは募ります。

サマースクール（本誌前号参照）に参加した子の親御さんから伺った話ですが、大嘗祭を伝えるテレビで「天照大神」と聞いた時「サマースクールで習った」と反応したそうです。「今どきの子供たちに欠陥があるのではなく「何を与えるか」の見識を持たない大人の側に問題あり、との持論をここでも実証してくれました。神話を小学校に甦らせることが、教育再生の突破口かもしれません。